

受付番号/受付日		演題番号	
----------	--	------	--

上顎前歯部の嚢胞性病変を摘出後，骨移植を行わずにHAコーティングインプラント埋入をした2症例

岸本 幸康
岸本歯科医院

Implant placement using HA-coated implant without bone graft after removal of a cystic lesion of the anterior maxilla – a report of 2 cases

Kishimoto Y
Kishimoto Dental Clinic

【緒言】上顎前歯部は根端部に嚢胞性病変を伴った場合，インプラント埋入に苦慮する機会が多い。すなわち，嚢胞性病変摘出後の骨欠損が大きい場合や，抜歯後急速に唇側の歯槽骨が吸収し，インプラント埋入のための骨量が不足することがある。そのような場合，歯槽骨の造成手術が必要になることが多く，侵襲性の大きなインプラント治療となる。今回，嚢胞性病変を伴った歯を抜歯後，病巣部の摘出のみを行い，骨移植や骨補填剤を使用せずにHAコーティングインプラントを埋入した症例を経験したので報告する。

【症例の概要】

症例1

デンタルX線で右上中切歯根端部に境界明瞭なX線透過像が見られた。歯牙の保存が不可能な嚢胞性病変と診断し，抜歯および根端部嚢胞の摘出を行った。抜歯10カ月後，one-pieceタイプのHAコーティングインプラントを埋入した。埋入3カ月後，上部構造を装着した。8年を経過した現在，経過良好である。

症例2

デンタルX線で右上中切歯根端部および右上側切歯根端部に境界明瞭なX線透過像が観察された。CT撮影により，両歯根端部のX線透過像は連続していることが確認された。連続した嚢胞性病変のため，右上側切歯は保存不可能，右上中切歯には根管治療により保存可能と診断した。右上側切歯を抜歯し，右上中切歯および右上側切歯両歯の根端部嚢胞の摘出を行った。その後，右上中切歯の根管治療を行った。11カ月後，one-pieceタイプのHAコーティングインプラントを埋入した。埋入3カ月後，暫間被覆冠を装着し骨欠損部の骨再生および歯肉の成熟を待った。1年3カ月後最終上部構造を装着した。

【結語】上顎前歯部の嚢胞性病変を摘出し，インプラント治療を行う場合，一般的には骨移植や骨補填剤を使用することが多い。しかしながら，ドナーサイトへの侵襲が大きいことや補填剤の感染がおこる場合がある。また，時間の経過とともに移植骨が吸収することも知られている。今回，HAコーティングインプラントの骨伝導能を利用することで骨移植や補填剤を使用しない治療行われ，低侵襲な治療が可能であったと考える。しかしながら，治療期間が長くなる問題がある。